



ブラジル中銀の介入継続方針受けてレアル相場反発

2013年12月6日

- ブラジル中銀総裁は、8月23日より実施中の為替介入プログラムを2014年も継続する方針を示す。
- ブラジル中銀は、8月以降、レアル安基調が強まる度に、為替介入強化によってレアル相場の安定化を図ってきた。
- ブラジルの生産活動は8月以降、回復傾向。ブラジル景気の回復もレアル相場の安定に寄与すると期待。

ブラジル中銀は新為替介入プログラムを継続へ

12月5日のブラジル為替市場では、ブラジル中銀総裁が8月23日より実施している新為替介入プログラムを2014年も継続する方針を示したことを好感し、レアル相場は対米ドル・対円ともに上昇に転じました。

ブラジル中銀のトンビニ総裁は12月5日の講演の中で、新為替介入プログラムを2014年も一部修正しながら継続する方針を示しました。同プログラムは、為替介入の透明性を高めるために、毎営業日一定額の米ドル売り介入を行うもので、当初の期限は2013年末までとされていました。

8月以降のレアル相場は、レアル安基調が強まる度に、ブラジル中銀が為替介入強化などの政策対応でレアル安定化を図ってきました。今回の局面でも、米国景気の回復期待を背景にした米ドル高基調の強まりや、ブラジルの7-9月期GDPの予想以上の悪化などを受けて、レアル安が加速する中での為替介入政策の継続が公表されました。

⇒2013年12月4日付「ブラジルの7-9月期GDPとレアル相場の動向」参照

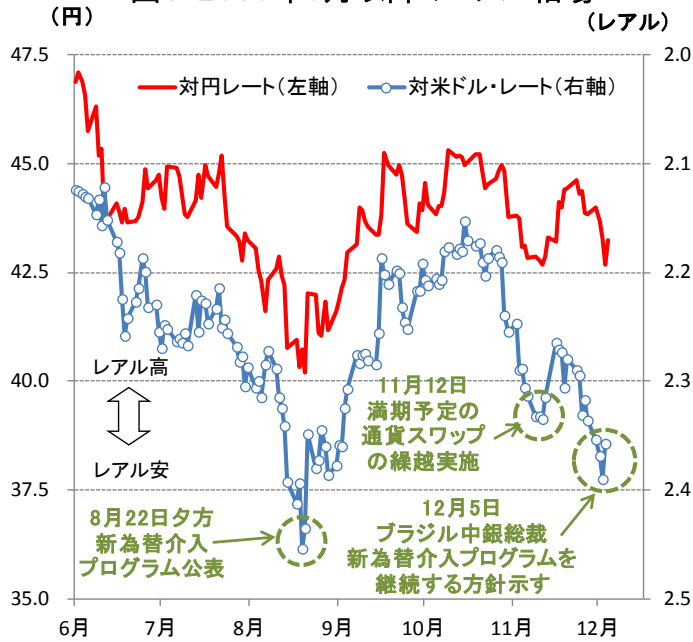
ブラジルの生産活動は8月以降は回復傾向

ブラジルの2013年7-9月期実質GDPの前期比でのマイナス成長により、一時的に景気下振れリスクへの懸念が高まりましたが、月次統計からはむしろ8月以降は生産活動が回復傾向にあることが確認されています。

2013年10月の鉱工業生産は前月比+0.6%と市場予想(+0.1%)を大きく上回り、3ヵ月連続での生産増となりました。ブラジルの生産活動のサイクルは、中期的にみても2012年4-6月期を底にした回復基調が依然維持されていると考えられます。

10月の生産回復を受けて、10-12月期の実質GDPは前期比でプラス成長に転換することが見込まれます。こうしたブラジル経済のファンダメンタルズの回復も、レアル相場の安定化に寄与すると期待されます。

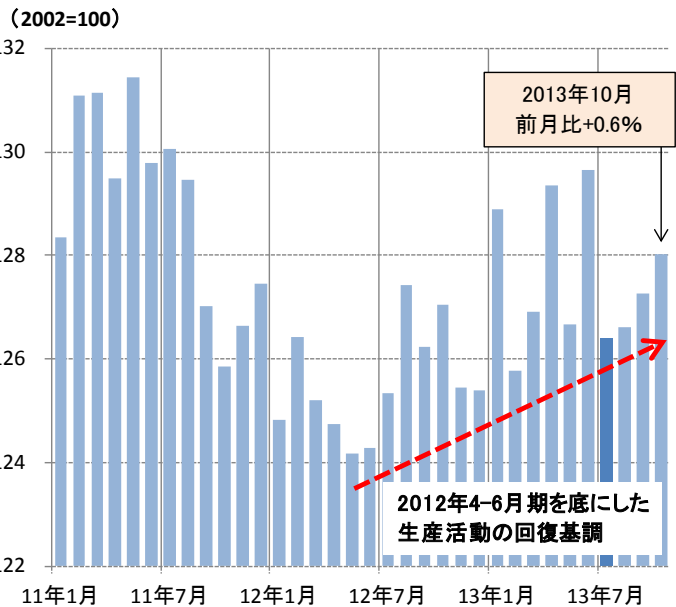
図1:2013年6月以降のレアル相場



(出所)ブルームバーグ

(期間)2013年6月3日～2013年12月6日

図2:ブラジルの鉱工業生産指数(季節調整済)



(出所)ブラジル地理統計院

(期間)2011年1月～2013年10月

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。